

令和3年度第2回成田市地域包括支援センター等運営協議会会議録概要

1 開催日時

令和4年3月23日（水）午前10時から午前11時40分まで

2 開催場所

成田市役所6階中会議室

3 出席者

（委員）

北村副会長、篠田委員、長島委員、吉田委員、石井（博）委員、以上5人
（欠席：山下会長、宮下委員、塚田委員、岩松委員、石井（英）委員）

（事務局）

米本福祉部長

平岡介護保険課長、青野係長、築比地副主幹

窺高齢者福祉課長、窪木係長、佐藤係長

西部北地域包括支援センター（北村管理者）

南部地域包括支援センター（井上管理者）

西部南地域包括支援センター（林管理者）

東部地域包括支援センター（岩澤管理者）

西部西地域包括支援センター（木下管理者）

4 会議次第

1 開 会

2 福祉部長挨拶

3 事務局職員紹介 席次表参照

4 議 題

（1）地域包括支援センターの運営等に関すること

①令和3年度地域包括支援センターの評価について

②令和4年度地域包括支援センター事業計画について

③介護予防支援業務等の一部委託について

（2）地域密着型サービスの運営等に関すること

（3）買い物支援事業の実施状況に関すること

（4）その他

5 閉 会

5 議事（要旨）

（1）地域包括支援センターの運営等に関すること

①令和3年度地域包括支援センターの評価について

○事務局

「①令和3年度地域包括支援センターの評価について」に関して、資料により説明。

その際の主な質疑は次のとおり

●篠田委員

生活支援コーディネーターの配置について市はどのような考えをお持ちでしょうか。

○事務局

今年度全ての日常生活圏域に生活支援コーディネーターを配置することを目指したが、東部圏域には配置できていない。現在、受託法人から内定を出している方がいると伺っており、来年度、4月からは全圏域に配置を予定している。来年度は各圏域でしっかりと生活支援体制整備事業を進めてまいりたい。

②令和4年度地域包括支援センター事業計画について

③介護予防支援業務等の一部委託について

○事務局

「②令和4年度地域包括支援センター事業計画について」「③介護予防支援業務等の一部委託について」に関して、資料により事務局から説明後、各地域包括支援センターの管理者から②の事業計画等について説明。

その際の主な質疑は次のとおり。

●長島委員

① 各課題は地域で差があるが、私も地域で生活しているので、少し見えつつある。職員1人あたりの高齢者人口が1,500人を超えている。相談内容も増加していて、今の体制で大丈夫なのか。年々相談内容が深刻になっているように思う。今後の状況についてどのように感じているのか教えて欲しい。

② それぞれのセンターが上手く機能していると思うが、閉じこもりの人をどのように対応していくのか。その人のポリシーもあると思われるが。

①の質問について

○事務局

職員の増員にも係ることであるが、本市では法に基づき、包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例により、第1号被保険者3千から6千人に1センター3名、保健師・社会福祉士、主任介護支援専門員などの専門職員を適正に配置している。国の評価基準では、職員1人あたりの高齢者人口が1,500人以下の場合は評価が高くなっている。地域包括支援センターは当初は高齢者の総合相談窓口として設置されたが、現在は、相談が複雑化、多様化する中、子ども、障がい者等の相談にも応じ、複合的な問題に対応する最前線の機関であると捉えている。経費等の課題もあるが、今後は重層的な支援体制の構築が必要なことから、市内の関係部署を含めしっかりと体制を検討してまいりたい。

②の質問について、

○西部北地域包括支援センター管理者

閉じこもりは本人が外部との関わりを希望しない人も多い。こうしたら良いという方法はなく、地域の方との連携や友人など、地域の見守りができる仕組みがあれば良い。ケースバイケースになると思う。

○南部地域包括支援センター管理者

1年間ノルディックウォークを進めてきた。そこで自主グループが立ち上がり、もっと歩きたい人においては男性リーダーが出来た。女性の積極的参加はみられるが男性は少ないので情報発信していきたい。

閉じこもりの人を無理に外に出すことは難しいと感じている。

○西部南地域包括支援センター管理者

参加が得意でない人は仕方がないが、それも権利だと考えている。課題を解決する支援、寄り添っていくことも支援、関わり続けて何かあれば対応するなど、工夫して対応していきたい。

○東部地域包括支援センター管理者

意見は他センターと同様である。1例として、関わりを拒絶していたが、生活困窮があり訪問を重ねたことで、趣味が分かり、そこから介入できた。個人的な意見だが、無理をせず時間をかけて関わり、何か繋がりができれば良い。民生委員は非常によく見てくれており、地域のネットワークで対応したい。

○西部西地域包括支援センター管理者

75歳を超えてもスポーツジムに通う方や、要介護認定者もデイサービスに通うことが出来ており、それ以外の人はその人の生活スタイルを重視している。移動販売は非常に良い資源であり、生活に通じた支援ができると良いと思う。

●篠田委員

なぜ男性は外に出ないのか、一番の理由はプライドだと考え、彼らは絶対他人の世話にはならないと思っている。私は、プライドを捨てないと共同生活はできないと周囲には言っていて、プライドを捨てること、絶対病気になるよ、地域みんなを支えることを伝えている。心配なのは大変なことがあっても相談しない人。相談することは恥ずかしいことではないと思う。

○事務局

過去に受講した研修会での事例を2例紹介したい。一事例目は民生委員の方が関わった事例であるが、自宅に閉じこもっている方を、3年間という長い時間かけて対応し、信頼関係の構築により、地域の交流会への参加に繋がった事例である。2例目は、本人が外出を望まないのであれば、その人の自宅に出向く逆の発想によりその方の自宅で体操の実施を企画したという事例の紹介があった。その後、2事例目の方も外へ目を向けていくことになる。まずは、何かある時に訪問

しても拒否されないことで良しとする、その関係づくりが大事であり、外出への支援は徐々にということではよいのではないかと考えている。

(2) 地域密着型サービスの運営等に関すること

○事務局

「地域密着型サービスの運営等に関すること」に関して資料により説明。

その際の質疑は、特になし。

(3) 買い物支援事業の実施状況に関すること

○事務局

「買い物支援事業に関すること」に関して資料により説明。

その際の主な質疑は以下のとおり

○篠田委員

一番これから良いと思うのは、タブレットやインターネットの活用を拡大することで、電子化に慣れていただくことが大事である。買い物にもタブレットが使えるようにして欲しい。また、介護サービスについて、ヘルパーと2人で買い物に出かけることができないため、同行できるシステムがあると良い。

移動販売については、自称ナリタヤつぶしてはいけない会の会長です。自宅から歩いていけるのはそこだけで、今あるものはつぶさないでほしいと思う。

○吉田委員

自宅最後まで暮らせる社会を目指す。タブレットが誰でも使いこなせる時代やドローンでの宅配の時代が来るだろう。80歳でも集まる環境は嫌だという人もいるので、自宅にしながら医療や買い物などのサービスが受けられることを目指した方が良いのではないか。

○事務局

ナリタヤとカスミで移動販売を行っているが、移動が困難な人にナリタヤは玄関先まで配達している。また、カスミの集合形式の利点として、歩くことで介護予防ができること、コミュニケーションの提供の場にもなり、それがお互いの見守りや地域づくりに繋がる。

タブレットはこれから高齢者も慣れていくことが必要で、新しい介護予防教室で勧めている。利用者は1割ぐらいであるが、オンラインはコロナ禍でもつながっていけるツールであり推進していきたい。

ヘルパー同行は制度上の縛りがある。ヘルパーの人材不足への課題もあり、市認定ヘルパー、介護ボランティアなど選択肢を広げていくことは重要な課題であるので進めてまいりたい。

○石井（博）委員

ナリタヤとくし丸は成田地区では民生委員も販売場所で見守りをを行っている。人が集まっているから来所している人もいる。事業はありがたい。タブレットは必要と思うが、スマホも使用できない人もいる。

6 その他質疑等

○長島委員

買い物支援事業についての統計のとり方。地区社協会長は16名、民生委員は209名の調査で地区社協会長は6割、民生委員は4割の希望が上がっているが、理由や背景的なところも含めて考えて欲しい。（回答希望なし）

〈議事終了〉

7 傍聴

なし

8 次回開催日時（予定）

令和4年8月